



# 1 浜田城下町案内 浜田城資料館

現在地は、江戸時代には浜田城の庭園で池と大小2つの島がありました。池泉回遊式の庭園でしたが、昭和41年(1966)頃に埋め立てられました。明治40年(1907)に庭園近くに建てられた御便殿は、皇太子の山陰行啓時の浜田での宿泊施設です。この建物を曳き移転し、令和元年(2019)から浜田城資料館として公開しています。

絵図では、石垣のある浜田城の中心は雲で隠れています。浜田城の東には内堀、西と南には浜田川があり、北には日本海が広がっています。浜田川左岸には小型船が多く描かれ、浜田川を使って物資を城下町へ運んでいたことが判ります。

1 浜田城資料館(殿町)

# 2 浜田城下町案内 侍屋敷・松原浦






現在地は、江戸時代には浜田城東側の侍屋敷でした。浜田城より少し離れた位置にあたり、主に中級武士の屋敷が配置された場所になります。松原浦は北側に広がり、侍屋敷地との境の3箇所には番所が設置されていました。

絵図では、石垣のある浜田城の中心は雲で隠れていますが、その東側には幅の広い内堀と狭い外堀があります。幅広の道と樹木のある屋敷が描かれた侍屋敷と、海側の屋根が多く描かれた松原浦が描き分けられています。松原浦と外ノ浦の海上には帆を畳んだ船、手漕ぎの船(伝馬船)、沖には帆を広げた船と、多くの船舶が行きかっています。

2 浜田市健康増進センター(松原町)

# 3 浜田城下町案内 外堀・侍屋敷

現在地は、江戸時代には外堀もしくは侍屋敷地内でした。浜田城からも近く、辺りには石高の高い家老や重臣の屋敷地がありました。現在、内堀と外堀はほとんどが埋められて、その名残が水路として残っています。

絵図では、西側に隣接して石神社の鳥居が描かれ、大きな区割りの中に家老の屋敷があります。幅の広い内堀には浜田城へ入る大手橋が描かれています。また、南側の浜田川には大橋がかかり、侍屋敷地へ入る北側には冠木門と柵が設けられています。大橋から大手橋までの道は曲り角が多く、城の防御性を高めています。

3 浜田市役所北分庁舎(殿町)

浜田城下町案内板 板面内容(4~6)

# 4 浜田城下町案内

## 浜田八町(紺屋町、新町)






現在地は、江戸時代には浜田八町の東側になります。浜田八町は、浜田川の南側にある八つの主要な町から構成されています。紺屋町から新町にかけては、浜田川の大橋、城内へ続く藩の主要道で、家中屋敷や町屋が立ち並んでいました。新町は、浜田城下の銀札場(現在の銀行)をはじめ、有力町人が軒を連ねた城下町の中心地です。

絵図では、紺屋町(現在地)の東側に三重口番所が描かれています。ここで、人と荷物の管理をしました。新町の北側に架かる大橋の近くに、高札場が描かれています。南側には、今宮神社の鳥居も確認できます。

4 紺屋町広場(紺屋町)

# 5 浜田城下町案内

## 浜田八町(蛭子町、片庭町、門ヶ辻町、絵物屋町)

現在地は、江戸時代には浜田八町の中央部になります。浜田八町は、浜田川の南側にある八つの主要な町から構成されています。蛭子町は、有力町人をはじめとする町屋が立ち並ぶ、城下町の中心地のひとつです。片庭町は、水運に関わる人々が多く暮らしました。門ヶ辻町と絵物屋町は、職人町としての色彩が強く、工町とも称されました。

絵図では、多くの人が行きかう広小路が見えます。これは、江戸時代の火災により、拡幅された道で、道路向いの家屋の延焼を避けるための対策であったと考えられます。門ヶ辻町と絵物屋町の南側には、多くの神社仏閣が確認できます。

5 栄町ロータリー(栄町)

# 6 浜田城下町案内

## 浜田八町(辻町、原町)・浜田浦




現在地は、埋め立てられた場所で、江戸時代には海でした。海側の浜田浦は、松原浦とともに浜田藩の直浦として、浦年寄の支配下にあります。浜田八町の西側にある辻町は、浜田浦に関わる人々が暮らしました。原町の通りは、現在の国道9号線とほぼ重なり、青口番所まで道が続いています。

絵図では、浜田浦の海岸線沿いに多くの手漕ぎの船(伝馬船)が描かれています。北には、大蔵神社の鳥居と参道が確認でき多くの人で賑わっています。西側の原町周辺には、大きな屋根の寺院が多くあり、城下の防衛の役割を担っていました。

6 かもめ公園(元浜町)